

Do CL Column

畑仕事とCL

東井 晃一

T&F 0767570850

<http://koufuuusuido.cocolog-nifty.com/blog/>

<http://fudoshia1990.life.coocan.jp/>



奥のこんもりした丘は古墳 右手に桜並木
桜の花が咲く頃の畑仕事は何とも言えない幸せな気分です

今年も梅の開花と共に春の到来、どんなに寒くて雪の多い冬でも必ず春がやってくる。春の陽射しと土の温もりで残雪が融けて、梅の花が咲き始める頃、ある程度土が乾いてきたら畑仕事の再開。畑を借りて今年で14年目になるだろうか、夏野菜を育てて14回目のベテランと言いたいところだが、定年後の時間にゆとりができてからも家族が満足してくれる収穫には至らないが、それでも農薬、除草剤は一切使わず安心して食することができる野菜の味は格別だ。自分の畑で収穫した野菜はそれぞれの野菜の味がするが、最近のスーパー等で買った野菜は形と色は確かにナスやキュウリ、ピーマン、ニンジンであってもそれぞれの野菜の味が希薄になっている。昔のような土臭い野菜は市場からはどうも嫌われている。その分、大切なミネラル成分がきっと少なくなっているのでは。

作物は種を蒔き、苗を植えたら、作物にとって必要な養分を土中から、水分は主に雨からそして最も大切な日光は太陽のおかげ、そして当たり前だが空気、酸素と二酸化炭素のおかげで育っていく。二酸化炭素は昨今悪者になっているが、光合成には欠かせない。炭素自体は生物には不可欠な元素である。光や風（空気）、水、土のおかげで育つので、私が見守るだけで、直接育てているわけではない。

私がしていることは、土に有機肥料等を施肥し、耕起し水分の補給を適宜手伝っていることと、雑草という名の強い生命力をもった草を適宜取り除くこと、これが大変なのだが。土壌や雨水、ましてや太陽や空気の代わりはできない。

種まき、苗の定植はそれぞれの適期に合わせて、天候、土の湿り具合などを見てタイミングよくやらなければ、発芽、定着しない。雨の前の播種、雨後の苗の定植など、天気に合わせて、作物の育ちたい時に合わせて準備、こればかりは自分の都合ではできない。

露地作物はその年によって高温少雨、低温多雨、日照り不足といった不順な天候の影響が成長や収穫を大きく左右する。天気（気温や陽射し）の変化にも気を配り、作物の成長をよく観察して、必要に応じた追肥等手当てを施していく。嬉しい収穫期には、旬の露地野菜はまさに身土不二（しんどふじ）。

「身と土、二つにあらず」、最高に美味しい。

主として、私が畑のお世話をしていますが、時折妻や娘が畑にきて様子を見たり、飲み物を届けてくれます。手伝ってくれるのは収穫の時ぐらいですが、収穫した野菜を家で食べて美味しいと言ってくれるのが、私にとって一番のご褒美。

かんかん照りが続き、水やりが大変な時、力仕事が続く時や時期を失してしまうような時には、「もういいか」とやる気が失せてしまう時にも、とにかく畑に行って作物は観察すること。やることが見えてくる。手と目をかけた分だけその差が収量に出ます。一つの作業をやり続けると疲れますが、そんな時は違う作業をします。力仕事の後に収穫、草取りや種まき、植え付けなど行動の変化で疲れをとると同時に、気持ちを切り替えます。やりたくない気持ちの時でも、作業をやり続けていると一日が終わる。

「下農は草を見て草をとらず、中農は草を見て草をとり、上農は草を見ずして草をとり」
「下農は雑草をつくり、中農は作物をつくり、上農は土をつくる」故東井義雄先生
※17世紀ころのことわざらしいです。基になった文章は中国明代の本（馬一龍の「農説」）にあります。「下農は雑草をつくり、中農は作物をつくり、上農は土をつくる」。
※この「上農は土をつくる」は兵庫県の故東井義雄先生がお百姓さんの話として紹介されたようです。まだまだ耕作初心者、初心を忘れず土作りしていきます。（富山県射水市インストラクター）



[➡ 目次へ戻る](#)